



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来（公/開）～

令和5年1月30日

横浜市立左近山小学校
Sakonama

2月号

「探求する楽しさ、学ぶ楽しさ」

副校長 上床 健太



2月4日は立春で、暦の上では、春がもうすぐそこまで来ています。しかし、まだまだ寒い日が続き、「春」が待ち遠しく思うこの頃です。春を待ちわびているのは、我々人間ばかりでなく、動物も植物も同じではないでしょうか。毎朝、朝一番で校内の巡回をしているのですが、その時、ふと窓の外の桜の木に目が留まりました。冬の間、木々は葉を落とし、枝がむき出しになり、一見すべての活動が止まっているように見えるのですが、よく見ると枝には蕾のような新しい芽をしっかりとつけているのです。これを冬芽（ふゆめ・とうが）と言い、晩夏から秋に形成され、休眠、越冬して、春に花や葉になる芽だそう

です。この冬芽は、植物により大きさ、形状などが違い、冬芽を見れば、植物の種類が分かるそうです。そのことを知り、実際に見てみようと思い、休日に散歩をしながら周りの植物を観察してみると、確かに様々な形状の冬芽を見つけることができました。そして、この冬芽についてさらに調べてみると、冬芽の形状は、裸芽、鱗芽、隠芽の3つのタイプがあり、春になると花になる花芽、葉になる葉芽と花と葉が別々になっているものもあり、植物によっては、混芽といい、一緒になっているものもあることが分かりました。一見、すべてを休止し、何もないように見える植物たちも、こうして寒い冬を必死に耐え、きれいな花を咲かせる春に備えて、しっかりと準備をしているのだと思うと、なぜか少しちょっと明るく、楽しい気分になってきました。さらに冬芽に対する疑問は広がり、開花のメカニズムについても調べてみました。開花に大きくかかわっているのはやはり気温だということです。しかし、温かいだけではだめで、冬の寒さを経験することも大切なようです。冬芽は、寒くなることで休眠状態に入ります。そして、真冬の厳しい寒さを経験することにより「休眠打破」といわれる休眠から目を覚ました状態になります。そして、暖かい日が続き必要な温度が積み重なると開花するようです。春にきれいな花を咲かせるためには、真冬の厳しい寒さが必要だということは、実に興味深い事実でした。やはり、生命の成長のためには、厳しい状況を乗り越えることも大切だということを改めて感じました。

こうしてふと目に留まった「冬芽」のことについて調べてみると様々なことが分かりました。また、そこから多くのことを感じ、考えることができました。そして、何より楽しい時間でした。知的好奇心に駆られ、答えを追い求める楽しさこそが学ぶ楽しさであるということを実感しました。自分で調べ、感じ、考えたことは頭の中に残り、自分の力となっていくと思います。これからも、子どもたちが、探求する楽しさ、学ぶ楽しさを味わっていけるよう、教職員一同力を合わせて支援していきます。